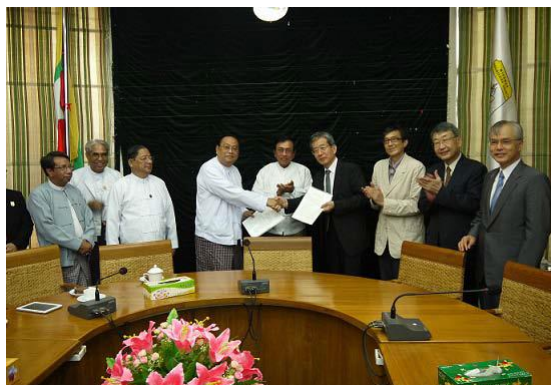


土木学会・ミャンマー工学会ジョイントシンポジウム報告

ミャンマー連邦共和国では、近年、アジア最後のフロンティアとして投資熱が高まっていますが、今後期待される経済成長を支えるためのインフラは著しく不足しています。港湾、道路、鉄道、電力といった多岐に渡るインフラの整備を短期間で効果的に進めていくためには、単に外国からの資金援助や技術支援に頼るだけでなく、現地の技術者を育成することも重要です。



MOU の締結

土木学会としてもミャンマーの土木技術者育成に貢献すべく、国際センター内にミャンマーグループを発足させ、当地の工学系学会である Myanmar Engineering Society (MES) との関係構築を模索しているところです。その第一歩として、2013年7月26日に MES-JSCE Joint Symposium をヤンゴンで開催しました。土木学会からは、橋本会長、森地元会長、上田国際センター長、山川国際センター長代行をはじめ 15 名を派遣しました。シンポジウムに先立ち、MES と土木学会の間で MOU 締結のセレモニーが行われ、MES の Win Khaing 会長と橋本会長が署名し、両学会の今後の交流を約束しました。セレモニーには Kyaw Lwin 建設大臣、Han Zaw 前 MES 会長（平成 21 年に土木学会国際貢献賞を受賞）も同席されました。

シンポジウムは 230 名出席と大盛況で、建設大臣の祝辞と両学会会長の挨拶に始まり、①技術基準整備戦略、②技術者教育のあり方とその実践、③具体の建設技術の 3 つのセッションで MES から 6 件、土木学会からは 5 件の計 11 件の発表がありました。ミャンマーのインフラ整備技術は橋梁では比較的高い水準にあるようですが、自前の技術基準がないことが喫緊の課題だと考えられます。同時に、インフラ整備に果たす高等教育機関の役割も決して大きくなく、技術者育成カリキュラムや研究者養成スキームの整備も急務です。シンポジウムは今後定期的開催できればと考えておりますので、これらの課題解決に向けて会員諸氏からのご支援をよろしくお願い申し上げます。



橋本会長の講演



シンポジウムの様子

【記：国際センター ミャンマーGr.リーダー 清水哲夫】

